新案見聞志 巻之五

遠13
2475
75

へ13
2475
75

茶礼樂

孫舎見聞抄四篇之大

目録

一 二品禪尼伐禪尼事
一 孫舎変災乃事
一 二位禪尼菱恵の事
一 小西西面の始乃事
一 院政孫友根元乃事

年九歳ノ時 細川小弟ノ変

頼倉見聞実録抜萃巻之大

二品禅尼伊豆ノ国ニ流サル事

去ル弘安ニ若君頼綱ヲ建保ノ
年正月十六日誕生ノ事ニ為成
三尼御前ノ中ニ生ル男子ニ成ル
ヲ頼倉小ヤ命ノ時ノ乳母ノ
両乃刑部改而成姫ノ清幼稚

乃ち二位禪尼の薦成帝
の御道成軍を以て為
乃ち京都に帰る京都元の進退
ままぐも皆禪尼乃ち
世を尼将軍に中て上下ちび
ち馬まちから貴賤乃ち
成男の薄乃高祖崩じ給後

[illegible]成ち
病ひと起さ山如母子の恩義と
断絶劉氏の子孫成滅て
徳長乃王寄人食其成寵幸
し給徳成稱ちと和ごと費
後世に伝つく孝平帝の立に
乃び孝元小伝つく孝元大后王

氏ならびに親王の中に改事氏
軍法人王奉御源氏奪ひてより源
征中須ひとり後源の世に
なりぬ章帝乃賞賜和帝
乃鄧后是に赤縄朝に
改道氏法人是に
婚姻乃鄧后

親王の中に神武法人倫小
御子世帝法法
立法法法改とり勅
改事氏紀世法勅乃財
勅氏家世氏世法改
道氏法家氏乃
家氏親法家

[illegible]人[illegible]事[illegible]
[illegible]事[illegible]
[illegible]事[illegible]皆是二位禪尼乃
[illegible]乃[illegible]
[illegible]国の[illegible]の
[illegible]人[illegible]の禪
尼[illegible]の[illegible]

北鶏乃[illegible]世乃戒
[illegible]二位乃禪尼[illegible]
[illegible]十人の[illegible]故
[illegible]の[illegible]
[illegible]小角[illegible]
[illegible]長乃禪尼[illegible]皆[illegible]
[illegible]月[illegible]

乃後者大金乃事乃事
ふ簑成是けす事乃紙成物
少陸右京大夫氏内伊勝指ひく張
ど鉾尾と為成指大小名
男しく乃品成物ど出ら
ちちちいめどちちち笑ち
鉾ひく変乃事

第二鉾鉾尾変怒の事
梅も連年歩後さく縁ち
中乃出火四毎ち止中ちく後ら
ふ道ちる事ちる元ども迷迷
と者つもじいづも道ちる事ち
まち此の品ち人風大反災ひ
おちる事人家成ひち神社仏

拾ひ取て結び立て立帰り
我押流し死亡の数知
れず天の琴聖人乃見と
おぼしかし此内に蔵人
重盛民部卿中納言変
異ハ記かたし所詮品事に
ゆゑ諸人驚き痛み寝
食我ら心ちの病ひ
南都に物ノ怪と成
東大寺に物ノ怪と成
薬久三年ノ南都を世乃
中立ち安堵ノ者ハ物ノ怪
賜ハ下たのハ男ハ刑ハ所
四月十八日乃朝ノ
終日止ざりし火災の炎

事成終人思ひくゝりとなす事
茂くゝ用んとすれども晩景及
び雷鳴出て夜二ト雨降り
雷光閃光くゝ事かぎりなし
電光閃光くゝ猶成潤ひたまゝ夜と変
ひまなく降夜さらぐ潤乃
ぶくゝ和くゝ人夜中と雷名

ゝ大年くゝ降ざる雷光を
ば見て紀言くゝ奥じまか
沢乃日殿中に陽陰春夏晴
事成玉玉光の美成彩雲の
雨一百六千乃神事古山
府君天書地府乃事と形ひ
雇くゝ人壁若紙と搏

續きまして同三月廿三日の晩ごろ禪
尼乃夢に生母二丈ばかり大境
内の浦より浪乃立て寄せ来り
小高き所に大神宮
天ぐ乃如く世乃中大ひに
乱れ出て春門にて敵
太平にかゝり申さんと
思ひて夢覚ぬ

禪尼涙ぐみて祈願の外
孫たる乃ぶ波多野次郎
朝定と使ひて大神宮を
拝ませ伊勢乃内宮を祈願大廟
陰宮作せ申帝宮遷座
如如乃如乃如元の変
元一院清涼殿及根元の変

在平乃宮仙洞御幸の支
同年四月乃頃より後島羽院の上皇
さまざまに亡ぼさんとおぼし
給へ共、清盛上皇の御
武威に天下乃権威
王威に寄り給へる
事なれば、禁中乃政道次第
山門と山門と
事始に第一乃皇子太子門流
子清盛十二年乃後子細
事始に第二の皇子
順徳院流に清盛
南朝正統乃儀乃如し軍乃

後藤の流とじ一流にまさる
本流にもかなる大内門流始じ
新流に嘗て是しより本流
新流の清中より天下の政道
南今新流に紀を始て諸
本流乃清にしより川
本流に初寄初寄

数代乃出いにて国郡より
政利成軍に又生岡山に
出て武蔵成に流
中小田乃者の本流の侍成
ものに法師の武士成に集わらる
法号白門流の清時に始て初の
侍成に出と又本初の

今まで南流武蔵と好まも
なりて武士成り
らるる毛利元
おぼりて信人止まり流流
乃国の住人仁科次郎平の盛直
まで弓馬成りしもの
息直盛まで指の星まで

元板さ寄人宿部乃まで見
成ひつまで熊野まく南清水成
相りて南流も熊野人詰で毛
なりしに途中まで進まりし
に諸方中寄り成りしにまく
まで高山に清水まで毛ふ
ふ中石まで人まで西南まで

父の跡を継ぎ家子と
共に東路に同道仕り候
くたびれ果て同じく清流
仙洞より御使ひ和泉守と
軍勢大きく勝り軍兵乃国成
侍清光も
東国武者

敵二ケ所乃胸板を
取り
返し
清盛
用ひ
乃太長刀金棒乃両庄
を

[illegible]
波一騎まで見しかども敵愛敬
横ゝまちかゆえ一流の軍兵
仰せつけられ波地沢波部さ
と人数ぞろい加藤兵衛尉
ゝまちかし地沢藏乃丞八幡宮より
ちかゝし武人乃部平氏退治乃

業ゝ事日本ゝの惣追補使に
補せらる平家追討六ヶ年乃間
国ゝ乃侍五人駿河武
乃氏綱と敵乃子市郎氏ゝ
高平氏ゝ熟功ゝ
分ち給ゝ隠知ゝ
ゝ恩賞ゝ義朝

[illegible]

[illegible]

[illegible]

所存なくも仕るや子細
いかゝじゃ御しるの事の中の御意中
事多く別義仕る方々山内
其しゝが御具しゝ女房故古左衛
の事門言法度生敵かゝる
ちれ功名者その娘ゝ結ぶ中
故実厨子思ひ事者者

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆゑ[illegible]
[illegible]
[illegible]

及ん者一部ハ新流井事成
清水用水清水流先主上
清国迄ハ清水同月清水と唱
乃高瀬ハ慶成親王中
寺ハ世附後島羽流と一流亦
寺ハ流と寺ハ大清門流
同じ中流と中寺ハ順ひく

流同じ新流と中寺ハ一流
少清水ハ清水一ツハ寺
東国の如ハ成立屋敷ハ
ひ清水ハ知ら絶事ハ
ハ